

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100907		
法人名	さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷さくら発寒		
所在地	札幌市西区発寒6条14丁目17-33		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆったりと過ごしていただく。</li> <li>・個別又は少人数での外出やレクリエーションの充実。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400907-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400907-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「満快のふる郷 さくら発寒」は、JR駅や地下鉄駅から徒歩で行ける距離の住宅街に立地している。住宅が密集している一角の事業所庭に種々の果樹や桜の木を植え、季節感と生活の潤いをとり入れている。平成15年に開設した当事業所は、住いの環境と利用者に向き合ったケアを重視し、個人の状態に合わせて暮らしを支えている。経営方針に沿って、活動方針と具体的な取り組みを職員間で話し合い、今年度は、ユニット毎に介護計画と個別ケアを計画的に進めている。前回の課題目標も熱心に取り組んで達成しており、法人研修、外部研修、勉強会など、職員育成のシステムも充実している。町内会や近隣グループホームと災害時の協力体制を築いている。また職員は火災以外に地震を想定した市の防災センター研修に参加したり、事業所内でシミュレーションを行い、備蓄品類も保管し種々の災害に備えている。医療連携の下で定期的な訪問診療の他、必要に応じて、かかりつけ医の往診があり、重度化しても利用者の生活が継続できるような体制づくりで、利用者、家族の安心感につながっている。管理者、職員が一体になってチームケアに取り組む笑顔で接している。利用者は暮らしやすい環境の中でユニット間を自由に行き来し、外出や外気浴を日常的に楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(1階ユニットアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はホーム内に掲示し、朝礼で唱和している。	法人グループホーム共通のケア理念を当事業所の理念としく六つの誓い>の中に、地域の一員として支える内容が盛り込まれている。行事や外出の機会を捉えて住民との交流を積極的に行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方をホーム行事に招いたり、町内会行事に参加したりしている。地域の小学校の運動会、学習発表会に参加している。児童会館と定期的に交流の機会を持っている。	町内会行事の新年会、秋祭りに参加し、また事業所の「さくら祭り」、「敬老会」には、町内会役員や近隣の人の参加がある。地域の「すこやか教室」にも通っている。児童館とは、七夕やアイスクャンدلなど、年に数回は相互に行き交い、子供との定期的な交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が窓口になって地域に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の会議の開催で、地域や家族との意見・情報の交換を行い、その後に活動に活かすことができている。	運営推進会議は町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て開催している。全家族に会議案内と議事録を送付しており参加率は高い。運営状況、サービス評価の結果報告の他、講師を招き口腔ケアやリハビリについて勉強会を開いている。災害対策についても協議し運営の参考にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が窓口となって市町村との協力関係作りに取り組んでいる。	届け出の書類を持参し、担当者顔見知りの関係を築くように努めている。介護認定の更新時や生活保護などの情報交換や確認で、各担当者と密に連絡をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり勉強会を開いて理解の向上と実践に努めている。日々の業務の中でも役職者からの指導を受けている。	身体拘束廃止マニュアルや内外の研修で、「禁止の対象となる具体的な行為」を学んでいる。事業所内に「身体拘束委員会」を設けているが、拘束が必要な事例は特にない。不適切な言動を社内研修で学び、気づいた点は注意している。日中は20時頃まで玄関を開けており、利用者の傾向を見て、外に出た時は行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を開いているが、職員が活用できるほど理解が十分に出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が窓口になって十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や地域運営推進会議等で、利用者、家族と外部の方の意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努力している。また、会社としてCSアンケートも実施。	年に数回は家族懇親会を開いており、この機会を捉えて率直な意見を頂きたいと考えている。また本部で家族アンケートを実施し、結果や対応を運営推進会議に報告し、議事録に載せて報告している。家族の来訪時には忌憚なく意見をいただけるように対応し、要望などは職員連絡ノートで把握している。	ささいな意見をも個人毎に記録し、さらに家族の思いを職員間で共有できるような一考に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やユニット会議での話し合いの他、ESアンケートの実施、定期的な面談の実施等で意見や要望を取り入れるよう努めている。	日々の意見を全体会議の議題にし、職員間で意見交換後に決めている。またユニット会議では自由な発言が出来るように、管理者は同席しないでリーダーの報告で把握している。管理者は年に2回、個人面談で職員の目標設定や個人的な相談に乗り、働きやすい環境に配慮している。職員は各担当を受け持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、自己評価と自己の目標設定を行っている。また、ホームの全体会議に社長が参加したり親睦会を行う等交流の機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修参加を認め研修費を負担している。また、外部講師を招いて社内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や総会などに職員や管理者が参加している。また、自らも大会等に参加している。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れユニットの職員が入居前に本人との面会を複数回行い、入居時の不安の軽減と馴染みの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時から困っていることや不安なことについては細かなお話を聞き、こまめに連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等により本人・家族からの情報を十分に把握し、適切な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を尊重したケアの実施し、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、文書で近況を報告したり、来訪時に直接情報交換するなど、家族との関わりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とのつながりは、殆どが来訪が主となっている。	近所の人や友人、親戚などの来訪時には、居室でゆっくり過ごせるように配慮している。本人の会話から希望を引き出し、デパートや喫茶店に家族や職員同行で出かけている。可能な限り利用者の楽しみや気懸りを把握し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の人間関係を把握しながら、快適な生活が送れるよう支援に努めている。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会や見舞いに行く等、関係の継続を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向を確認出来ない場合には、家族の意向を参考にしながら対応を検討している。	センター方式のアセスメントで利用者の暮らしの情報を収集し、6か月毎に見直して情報を蓄積している。利用者の日々の会話、また意思表示の困難な場合は情報から暮らしをイメージしたり、表情から思いを探り、それらを介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院や事業所の情報提供や、本人・家族からの情報を参考にしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや連絡ノートにより情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファを開きモニタリングを行っている。事前に家族の意向も確認しケア内容に反映させている。	介護計画は3か月毎に見直し、その際にアセスメントのEシート(介護計画のために24時間の状態と課題)を確認している。カンファレンスで話し合い、モニタリング表を作り、評価後に介護計画を作成している。計画書に家族の意向、医療情報を盛り込み同意を得ている。介護計画と日々の記録を連動させて分かり易いように青字で記録し、次回のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りとケース記録が主となっているが、職員間の情報の把握・共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	子供110番。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の電気屋・スーパー・コンビニ・床屋・銭湯を利用したり、区内GHとの交流会等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックとの連携を密にし、24時間体制の医療を受けられる体制が整っている。かかりつけの内科以外の受診も継続している。	月2回の協力医の訪問診療と週1回の訪問歯科が定期的であり、また必要に応じて、かかりつけ医の往診もある。往診前にFAXで情報を流して連携に努めている。家族対応のかかりつけ医受診の際には「生活チェック表」を渡し、家族の事情によっては職員が同行している。受診内容は連絡ノートに記録し把握している。	

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先のクリニックから週1回看護師が健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関との連絡を密にし情報が途切れないよう努めている。入退院時の説明には同席することもあり。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全入居者に対して、ターミナルケアについての意向を家族から確認し文書をかわしている。主治医からも説明と同意を文書で交わしている。	利用開始時に重度化への対応方針と「看取りの希望書」を文章で確認し同意を得ている。日常的に医療処置がなく、家族が看取りを希望する場合は「グループホームで最後をむかえること」を文章化し、同意書を交わしている。看取りが必要な利用者は個別に記録して内容を把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の受講など積極的に取り組む体制をとっている。また、OJTでも指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練には消防署の他地域の方にも参加していただいている。	消防署立会いの下で夜間を想定して年2回の避難訓練を実施し、町内会長、近隣の人は誘導後の見守りで参加している。全体会議で地震を想定したシュミレーションを行い、災害時の備蓄品類も確保している。全職員は全体会議で消防署の指導の下で救急救命訓練を受け、市の防災センターにも参加している。	災害対策を万全に実施されているが、さらに種別ケアの中での災害時を想定し、シュミレーションで確認されることも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念に基づき人格の尊重とプライバシーの保護に努めている。	「介護職としてのマナー」研修で言葉使いを学び、ため口にならないように指導している。名前は姓名に「さん」付けとして、気になる言葉かけはその都度指導している。トイレの排泄用品は、収納棚に入れてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションと様子観察から、思いをくみ取り関わるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先する場面も見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容の時間を決めて、身だしなみの確認を行っている。女性に化粧をして気分転換を図ることもあり。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付や味見など、出来ることを見つけて入居者と一緒にキッチンに立つ機会を作っている。	献立は食材会社の栄養士が作成しているが、週1回は利用者の好みの献立にしている。少人数で寿司屋などへ外出に出かけたり、誕生日は本人の好きな献立にするなど、食事が楽しめるように配慮している。庭の栗や畑の野菜など、季節の食材を活かした献立も多く取り入れている。職員は利用者とは話をしながら、同じ食事を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、摂取量を把握しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを行っている。また、利用者によっては、訪問歯科の口腔ケアも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、利用者の排泄感覚を把握しトイレ誘導などを行っている。また、様子観察からの誘導を行っている。日中は全員トイレでの排泄をすすめている。	全員の排泄を記録し、パターンを把握している。必要に応じて、本人が理解しやすい言葉がけを行い、日中はトイレでの排泄を支援している。職員間で自立に向けて検討し、リハビリパンツから布下着やパットなどに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況に合わせた下剤の調整と合わせて、乳製品を提供するなど工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回をめやすに個人の意向や状況に合わせて入浴していただいている。	入浴は週2回以上を目標に、毎日午前から夕食後まで、本人の希望に応じた時間帯で入浴できるように支援しており、毎日入浴している利用者もいる。本人の意向や身体状況に応じて、2人介助や同性介助なども行っている。入浴後に好きな飲み物などを提供して、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況や好みに合わせて照明や掛けものを調節している。また、再入眠をすすめるためにホットミルクやおやつを提供することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬情を確認できるようにしている。変更があった時は連絡ノートや申し送りでも周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性はキッチンの作業や植物の手入れや読書、ぬり絵等の役割や楽しみが持っているが、男性利用者は、役割や楽しみを提供できていないことが多い。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添った外出支援はできていない。	季節や天候に応じて近隣を散歩したり、公園に出かけている。玄関前で日光浴をしたり、洗濯物干し、手紙の投函など目的を持って外出できるように工夫している。利用者担当職員が計画し、通院時などを利用して毎月個別に外出できるように取り組んでいる。冬季もドライブに出かけ、雪まつりやクリスマスツリーを車窓から見学するなど、年間を通して全員で外出する機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者については、家族と相談の上、所持したり使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけてもらったり。はがきを提供している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓以外にもソファや椅子を配置し、気分や状況に合わせて落ち着けるように配慮している。ユニット内にも植物を置き水やりなどを利用者が行っている。	共用空間は広々として開放感があり、玄関にあるロビーは利用者の寛ぎの場所になっている。居間や食堂に面した大きな窓からは、栗や桜、紅葉などの庭の木々が見え、四季を身近に感じることが出来る。ユニット毎に、利用者に応じて家具類の配置を工夫するなど、居心地よく過ごせるように配慮している。壁には、絵画や利用者の写真が飾られ、自然な温もりが感じられる。ペットのウサギは、利用者の安らぎになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自発的なコミュニケーションが困難な方には、職員が仲介するなどして孤立しないように心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの写真等を置き落着ける環境作りを工夫している。	居室には、洗面台と鏡、ベッドが備え付けられている。希望に応じて、好みのベッドや布団なども自由に利用できる。仏壇やタンス、書籍、趣味の品々などを持ち込み、落ち着いた環境で過ごせるように工夫している。自分の作品や家族の写真などを飾り、その人らしい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで引き戸が多く、エレベーターもあり車椅子でも館内の移動もしやすい。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100907		
法人名	さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷さくら発寒		
所在地	札幌市西区発寒6条14丁目17-33		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400907-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400907-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階ユニットアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念である「6つの誓い」を毎日の朝礼で唱和している。ユニット内にも掲示しており、すぐに見える所にある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事に招待したり舞踊やマジックを披露していただいている。小学校の運動会、学習発表会に招待され観覧している。その他、町内会の一員として様々な活動に利用者と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回発行している「さくらだより」を町内会に配布・回覧を依頼している。それにより、ウエスやリネンの寄付をいただいたり、ボランティアの申し込みを受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域運営推進会議を開催している。ホーム内の取り組みについて報告し、ご家族や町内会の方々と意見交換をしてサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当ケアマネジャーとは連携が取れているが、その他の行政担当者とは密に連携を取っていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部研修の参加や施設内での研修会を通して理解してもらうように努めている。日々の業務の中でも身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部研修の参加や施設内での研修会を通して理解してもらうように努めている。日々の業務の中でも虐待のないケアに取り組んでいる。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について外部研修の参加や施設内での研修会を通して理解してもらうように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が契約時や解約時に利用者ご家族へ十分な説明を行い理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	役職者が窓口となり意見や要望を聞き、その都度対応している。また、ケアカンファレンスで話し合い反映させている。会社としてCSアンケートを実施。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談を行っている。日々、困ったことや意見等の話を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入や全社員対象のアンケートを実施する等職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の機会を設けたり、社内研修を実施している。又、社内他ホームや他ユニットで勤務する交換研修等の機会があり、トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内のグループホーム勉強会や近隣のグループホームの祭りに参加しているが、日常的な交流には至っていない。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは入居前に受け入れユニットの職員が複数回面会訪問しなじみの関係作りを開始している。また、できるだけ入居までにご本人にも見学をしていただくようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時から不安や要望等、ご家族からのお話を十分に受け止めるように心がけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者からの情報を基にカンファレンスを行い、必要としている支援の見極めやケアの統一をし、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること・出来ないことや趣味・嗜好を把握し、共に生活する一員として関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安を解消する努力をし、できるだけ自宅への外出ができるよう支援し実現しているケースもある。月に1回、担当者から生活状況を文書で伝えている。また来訪時には近況をお伝えしご家族でゆったり過ごしていただけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に沿って馴染みの人へ電話連絡出来るようにしている。また、家族の不安を解消するよう働きかけ肉親や友人の見舞いや葬儀等にもでかけられるよう支援している。ご友人が来訪された時はゆっくりと過ごしていただけるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でゲームや家事をしたり、談笑の機会を作り、一人ひとりが孤立することがないよう支援している。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いや面会に行き交流している。また、家族から様子について連絡を受けることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を把握し、カンファレンス等で検討して職員間で共有している。困難な場合はご家族の協力もいただき、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得て、一人ひとりの生活歴や馴染みの環境等をセンター方式を用いて把握し、職員間で共有してケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で現状の把握に努めている。状況に変化がある時は都度職員間で伝達して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の意向を取り入れる為に、カンファレンスでアセスメントやモニタリングを行い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や職員間の連絡ノートを用いて情報を共有し、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	こども110番に登録している。地域のボランティアの活動を受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や町内会の行事に参加している。また、地域の飲食店やスーパーに買い物へ行ったり、床屋や銭湯、寿司やを利用し生活の楽しみの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の希望により、主治医の変更や継続をしている。又、月2回の往診を受け適切な医療が受けられるように支援している。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理を行っており、看護師へ相談してアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携病院とは24時間の連携をとり、その他、月2回の往診や緊急時の入院先の紹介を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとしての重度化・終末期の指針を説明し、家族の意向を確認し文書を交わしている。終末期については主治医からも説明と同意を文書で交わしている。意向は段階ごとに確認する。職員は方針に沿ってチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修をしている。その他、緊急時のフローが掲示している。また、OJTで指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下で年2回昼夜想定避難訓練を利用者も参加して行っている。地域の方にも参加していただき、協力体制を築いている。また、非常持ち出し袋もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、一人ひとりの自尊心や人格を尊重したケアの実践に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念に基づき、自由にその方らしく生活していただけるように利用者の思いや希望を大切にケアの実践に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活はスケジュール化せず、一人ひとりの体調や精神面を尊重し、その方がどのように過ごしたいか希望に沿って支援出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来てもらってカラーをしたり、季節に合わせてその人らしい身だしなみができるように支援出来るように努めている。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、盛り付け等、職員と一緒にやっている。下膳も出来る方は行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄やうがいを促したり、介助で行っている。利用者によっては訪問歯科による口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用が減るように排泄パターンを把握してトイレでの排泄を第一に考えて支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせて乳製品やおからを提供したり、運動の時間を設ける等、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を目安に曜日や時間を決めつけることなく、利用者の希望や状況に沿って入浴できるように支援している。希望により毎日入る利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に合わせて休息できるよう支援している。室温や照明、寝具等も調節して安心していただけよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容はユニット内にファイルしており、職員がいつでも見ることが可能な状況にある。また、薬の変更の際は連絡ノートを活用して、共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントに基づき介護計画に取り入れたり家族の協力を得るなどして、日々の生活の中でその方に合った支援をしている。		

満快のふる郷さくら発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って銀行やコンビニ、デパートへの同行支援を行っている。また、担当職員が中心となってデパートやドライブ・外食等の外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は自己管理しており、買い物の際はご自分で支払いをする等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はご家族と電話でお話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体はバリアフリーで手すりも多く車椅子等でも移動しやすい。共用空間には思い出の写真があり、窓からも緑が見えるので季節感のある生活を支援することが出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや喫煙室があり、その方に合った居場所を作れるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族との写真があったり、仏壇等の使い慣れた家具等が置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで手すりもある。車椅子の方もユニット外に出れるようエレベータも完備している。各居室前にはご本人の表札と顔写真があり、わかりやすいようになっている。		



## 目標達成計画

事業所名 満快のふる郷さくら発寒

作成日：平成 24年 11月 19日

市町村受理日：平成 24年 11月 26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族のささいな意見や要望とそれに対する対応が記録され共有されていない。	家族の思いを受け止め共有し信頼関係を構築する過程を記録し全職員で共有する。	①来訪時などのコミュニケーションの中からささいな意見や要望を汲み取る。 ②キャッチした情報を家族記録に記録し回覧する。 ③必要に応じてミニカンファレンス等で話し合い、対応を決定する。→ホーム長に報告する。 ④対応結果等を家族に報告する。	1年
2	36	種別ケアの中での災害を想定した災害対策の取組みがなされていない。	種別ケア中の災害を想定した訓練を行う。	・職員間で入居者役、介助者役となり、種別ケア中の非難誘導の訓練を行う。(年1回)	6ヵ月
3	30	利用者ごとに、いつ、どのような医療サービスをうけたのかがわかりづらい。	受診・往診記録の内容を整理し、入居者様ごとの医療情報と現在までの経過をわかりやすくまとめる。	①受診・往診記録には、他科受診以外に定期的往診や医師からの説明・同意書交付等も記録する。 ②ファイリングされている受診・往診記録を確認し、記録をする。(H24.4～)	6ヵ月
4	6	職員が身体拘束として禁止されている具体的な行為を正しく理解し日常的に確認できるものがない。	身体拘束として禁止されている具体的な行為を職員間で常に意識してケアに取り組む。	①指定基準において禁止の対象となる具体的な行為の11項目を各パートナー室に掲示する。 ②申し送りやカンファレンス時に抵触するような行為になっていないかどうかを確認し合う。 ③身体拘束禁止や高齢者虐待防止の研修。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。